

わたくしたちの健康

慢性皮膚病

朝霞地区医師会 なかすて かつき 中捨 克輝
☎464-4666

今回は乾癬を中心とした慢性皮膚病でお話をいたします。「慢性の皮膚病」といってもイメージがむずかしいと思います。みなさんの中には、血圧・血糖やコレステロールが高いといった、毎日お薬を服用する病気をもちの方もいらつしやると思います。長い期間の治療が必要な状態になることが多く、これを「生活習慣病」や「慢性疾患」とも呼びます。これらの病気の患者さんは、一般的な常識として生活の内容を改めながら、定期的に通院してお薬を服用することが必要であると分かっているらつしやると思います。

一方で皮膚の病気が突然どこかがかゆい・痛い・腫れたなどで始まり、皮膚科でお薬をもらって使えばいつの間にか治ってしまう、という風に「皮膚の病気はすぐ治るもの」と思われていることが多いのですが、体質や生活習慣に係り繰り返すような慢性の皮膚病もあるのです。

慢性の皮膚病といってもいろいろありますが、代表的なものを紹介するとアトピー性皮膚炎、一ヶ月以上続く蕁麻疹、脂漏性湿疹、乾癬などがあります。アトピー性皮膚炎や蕁麻疹は患者さんも多い病気です。

乾癬という病名は、見た目から『乾(かさかさした)』『癬(かゆみ

を伴う皮膚病』という字が当てられています。感染と同じ読みですが、他人にはうつりません。乾癬の患者さんは人口の0.3%と言われており、全国では40万人以上いらつしやることになりました。

乾癬は力カカサした赤い発疹が全身、特にすれる部位に出るのが主な症状で、これが長い期間に増えたり減ったりを繰り返します。乾癬の原因は免疫の異常と言われています。免疫の異常から皮膚に炎症を起こした結果が赤い力カカサした発疹ということになります。皮膚の症状のほか、炎症が関節に及んで痛くなる、膿疱(のうほう)膿を持った発疹)と熱が出るなど、乾癬にはいくつもの種類があります。

治療方法を決める際には、医学的に見た症状の重さだけでなく、ご本人が皮膚の状態をどれぐらい悩んでいるかを参考にします。乾癬の患者さんは発疹やかゆみといった症状に加えてその治療にかかる時間や手間などの負担、「フケのような角質が服や床に落ちる」、「人目が気になって温泉やスポーツクラブに行きづらい」、「仕事や家事、スポーツが自由にできない」など、生活へのさまざまな負担が患者さんを悩ませています。その悩みをご本人が満足できるように治療法を選んでいくことが大切です。

乾癬の治療は免疫から皮膚の炎症までの道すじのうち、どこを抑えるかを考えながら方法を選びます。塗り薬や患部に紫外線をあてる光線治療は皮膚の炎症を末端で抑えていく治療法です。体への負担は少ない反面、発疹一つ一つに治療する手間がかかり、新たな発疹が出るとまた治療が必要です。飲み薬にもいくつもの種類の薬があります。塗り薬に比べると副作用は少し増えますが、治療の手間は軽くなるので自分に合うものを相談して選んでいきます。

最近では免疫の異常を「生物学的製剤」として強く抑える『生物学的製剤』という薬があります。注射薬で費用がかかるという欠点がありますが、良く効いた場合には発疹が出なくなり、注射を定期的に行う以外に乾癬のことを忘れられるほどになるため、患者さんの生活の質がとて良くなります。

慢性皮膚病の治療を行ううえで最も大切なのは、患者さんがかかりつけの先生と協力して病気のことを理解し、自分に合った治療法を選んで自己管理を行っていくことです。それが出来れば、病状や治療結果に対して納得して過ごしていくことが出来るのではないかと思います。

わたくしたちの健康

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	電話(048)	場所	施設名	科目	電話(048)
6	3	朝霞 あさくらクリニック	内・消内・小	423-8470	新座	新座駅前耳鼻咽喉科	耳・アレ	458-0390
	10	新座 坂本医院	内	481-4839	朝霞	栗原整形外科	外・整外・皮・リウ	463-2325
	17	新座 新座中央通り診療所	内・小	473-3331	新座	牧田産婦人科医院	産婦	478-1151
	24	新座 大塚産婦人科医院	産婦・小	479-7802	朝霞	大野眼科クリニック	眼	424-3733



※当番医は変更になる場合があります。確認してからお出かけください。